

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和6年1月1日（月）20:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：武山広報官

<本日の報告事項>

○司会 では、ただいまより、本日1月1日16時6分以降に発生した地震による影響について、原子力規制庁からの記者ブリーフィングを実施します。

広報官の武山より御説明いたします。

○武山広報官 広報官の武山です。

お手元の資料は3枚ほどございますけれども、原子力発電所の状況ですけれども、引き続き原子力発電所については、使用済燃料プールについての冷却等、安定な状態を続けております。

まず、お手元の資料でございますけれども、前回の記者ブリーフィングのときに御説明した内容を補足させていただきたいと思っております。

まず、送電線の系統についてですけれども、お手元の資料、A4で横でございますが、現在、この66kV（キロボルト）の送電線、それから、275kVの送電線で電気を受電しておりまして、それによって電源が確保されているという状態になっておりますというのが1つございます。

それから、モニタリングポストの欠測の状態ということで、地図の絵がございましてけれども、現在、101のモニタリングポストのうち、12の局に関して欠測ということになっておりますという状況でございます。

それから、もう一つ、資料にはございませんけれども、前回の記者ブリーフィングのときに柏崎の1から7号機のスロッシングの話が出ていたと思っておりますけれども、スロッシングについて、事実関係としましては、2号、3号、4号、7号についてはスロッシングありということでございまして、スロッシングが確認されているという状態になっております。

ただ、使用済燃料プールは水位が所定の値を超えてしまうと警報等が鳴って、それに対して対応することになるのですけれども、そういう状態には至っていないと思っております。特に我々のほうにそういう警報が鳴ってそういうことになっているという情報は来ておりませんので、取りあえず今のところはそういうことではないのだろうなと思っております。

プラントの状態としては以上でございます。今後、また特段何か新しい情報があれば、このような形でまたブリーフィングをしたいと思っております。

以上でございます。

<質疑応答>

○司会 では、御質問をお受けいたします。御質問のある方は挙手をしていただいて、会社名とお名前をおっしゃってください。

では、そちらの、お願いいたします。

○記者 共同通信のウエムラです。

モニタリングポストについて、さっき13ヶ所で欠測があるということだったのですが、1ヶ所回復したということですか。

○武山広報官 1ヶ所回復しておりまして、17時50分頃ですかね。回復したと聞いております。

○記者 それから、変圧器の付近で焦げ臭いにおいを確認したという話ですが、それは結局消火とかそういうことには至っていないという認識でいらっしゃるのですか。

○武山広報官 これについては、事業者から確認をしたところ、要するにまず噴霧消火というのがされているようです。噴霧消火がされて、その後に自衛消防隊が駆けつけたところ、火が上がっている状態はなかったということです。あと、焦げ臭いという匂いも確認されなかったということで、もしかしたら噴霧消火によって消されたのかもしれない。そこはまだ分かりません。

○記者 噴霧消火というのは何か薬剤をまくということなのでしょうか。

○武山広報官 薬剤なのか水なのか分かりませんが、自動で多分検知して水が出るというか、そういう形になると思いますけれども。

○記者 分かりました。

2号機の変圧器と言っていいのでしょうか。

○武山広報官 はい。2号機の主変圧器と聞いています。

○記者 2号機主変圧器ですね。分かりました。ありがとうございます。

○司会 どうぞ。

○記者 NHKのヨシダです。

同じく変圧器の関係なのですが、これは1号機は異常はないということなのでしょうか。

○武山広報官 1号機は起動変圧器というところで油漏れが確認されているようです。

○記者 先ほど最初のブリーフィングだと、油漏れというのは1号機に関する変圧器のところ。

○武山広報官 そうなります。

○記者 焦げとかの話があったのは2号機の話なので、別な変圧器ということ。

○武山広報官 別の変圧器になります。

○記者 あと、この50万Vの送電線から来ている変圧器のほうに記号バツとかと書いてあるかと思うのですが、これが焦げとかと関係はあるのでしょうか。

○武山広報官 このいわゆる500kVの送電線から行っている、2U主変圧器と書いてありますけれども、これがまさにそれになります。焦げ臭いと言われたものです。

○記者 それによってここが今受電できない状態になっている。

○武山広報官 そうです。だから、ここはそういう意味では今は使わない状態になります。そういうことです。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 では、どうぞ。

○記者 時事通信のカンダです。

今の確認というか整理なのですから、1号機、2号機合わせて3本の送電線が来ている状態で、それで2号機に受電できるのは500キロと275キロの2本。だけれども、500キロのほうは主変圧器が機能しなくなっているの500キロから受電できない状態で、一方、1号機のほうは66キロと275キロの両方から一応受電できるのだけれども、起動変圧器が死んでいるので、275からは受電できないという状態になっているということなのでしょうか。

○武山広報官 今は2号機については275からということで、それから、1号機は66kVオンリーという形になっています。

○記者 それから、2号機のDG（ディーゼル発電機）が1つバツがついているのは、これはここに書いてある点検中で地震前から止まっている状態だということではないですかね。

○武山広報官 はい、そうです。

○記者 分かりました。

あと、スロッシングで床に落ちた水というのは、中越沖のときはKK（柏崎刈羽原子力発電所）で穴みたいなのがあって外に出てしまったって事例がありましたけれども、今、そういうのは対策が取られていて、外に出ることはないようになっているという理解でいいのでしょうか。

○武山広報官 普通はスロッシングをすると液体廃棄物処理系のドレン系に行くというのが普通なので、一応そういう形にしていると思いますし、あと、できるだけ出ないようにという対策はしていると思いますけれども。

○記者 分かりました。

あと、この送電線とかの倒壊とか断線とかそういったものというのは、今のところ、そういうのを確認されているというのはあるのでしょうか。

○武山広報官 そういう情報は今のところ来ておりません。

○記者 分かりました。

○司会 ほかほございますでしょうか。

では、こちら側の方、お願いいたします。一番奥の方。

○記者 TBSのタケモトと申します。

まず最初にスロッシングの件でお伺いしたいのですけれども、頂いた資料3ページのところに周辺環境への影響もなしというのは、これは何をもって判断されているのかというところについてまず教えていただけますでしょうか。

○武山広報官 まず、特にモニタリングポストが、そういうところで異常な値が出ていないということが一番大きいかなと思いますけれども。

○記者 ありがとうございます。

続いて、こちらの送電線の件なのですけれども、先ほどの会見の終了間際のところで5系統外部電源についてあるとお伺いしていたと思うのですけれども、資料の読み方の確認で、資料には3系統書かれていて、これとは別に2系統があるという理解でよろしいですか。

○武山広報官 結局、系統というか回線という言い方だと思うのですけれども、この絵で言いますと500kVがまず2つ一番上のところに出ています。これはまず2回線です。もう一つ、275kVの送電線も同じように2回線あります。2つあります。66kVは1つの送電線を途中で分けて2つにしているので、これは1つだけということで、全部で5つということになります。

○記者 という理解だと、5系統の中で、この絵の中で今使われているのには2系統。

○武山広報官 今使っているのは2系統。ただ、66kVもここでもう一個枝分かれしているものがあります。これも使えるのですけれども、ここは使わなくても済んでいるという状態です。

○記者 ありがとうございます。

あともう一点、2号機のディーゼルエンジンが停止、点検中ということで、仮に275kVの予備電源変圧器に何か不具合があった場合は、これはどういった形で冷却ができるということなのでしょうか。

○武山広報官 それは、2D、2Cと書いてありますけれども、このディーゼル発電機から電気を供給する形で冷却はできます。

○記者 ディーゼルエンジン、これはC、D、Eのいずれかが動いていれば安全上問題はないということでしょうか。

○武山広報官 問題はないです。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかほいかがでしょうか。

では、どうぞ。

○記者 毎日新聞のタカハシといいます。

確認なのですが、志賀原発2号機の変圧器の関係の焦げの話なのですけれども、先ほどのお話から言うと、火災があったかどうかは分からないというのが今の状況でいいのですか。

○武山広報官 現場では、今、私のほうで事業者からもらっている資料によると、まず噴霧消火がされて、現場は焦げ臭いという状態だったと聞いているので、火災の判断は、現場では、発電所ではそういうふうに判断したのだらうなと思いますけれども、ただ、公設消防の方が来ていないので、火災の判断というのは最終的には消防署の人が判断することなので、そういう意味ではそこはまだペンディング状態ということです。

○記者 ただ、噴霧消火がされるということは、当然何らか火の手が上がったとか。

○武山広報官 やはり何か検知しているはずなのですね。ただ、難しいのですけれども、火ではなくても作動する可能性はゼロではないので、何とも言えません。

○記者 事業者としては、火災があったという認定で来ている。

○武山広報官 事業者はどうも火災判断をしたようですと聞いています。

○記者 あと、KKのスロッシングの関係で、これは単なる確認なのですけれども、スロッシングがなかったのは1、6号機ということでもいいのですか。

○武山広報官 いえ、スロッシングがなかったのは1号機だけです。

○記者 6については確認中。

○武山広報官 2、3、4、6、7と聞いていますので、だから、1と5は取りあえず今のところはあったという情報は来ていません。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 では、どうぞ。お願いします。

○記者 NHKのヨシダです。何度もすみません。

細かいところ、まず焦げについては、これはあったかどうか確認できているのでしょうか。

○武山広報官 いえ、これもあったかどうかの確認はできていないです。

○記者 要は焦げ臭が続いてはいないということですか。

○武山広報官 お手元の資料でも3ページ、A4の束ねているものの3ページに、一応2号機のところで自衛消防隊の焦げ臭がないこと、火の手が上がっていないことを確認となっていますので、この17時30分現在はなかったということだと思えるのですけれども。

○記者 先ほどのところ、火災はあったかなかったかは最終的に消防の判断なのですけれども、現場としてはなかったということなのですか。

○武山広報官 いえ、現場としては恐らく、先ほども申し上げたけれども、火災判断をしていると思います。

○記者 あったという判断で対応している。

○武山広報官 あったのだらうと推測していると思います。

○記者 分かりました。

あと、もう一度電気の系統図の確認なのですが、これはバツがついている1U起動変圧器というのと、2U主要変圧器というのは、1とか2とかというのはどういふ。

○武山広報官 これは1号機用と2号機用という意味ですね。原子力発電所は要するに志賀1号、志賀2号と2つ原子炉がありますので。

○記者 分かりました。

この起動変圧器の起動というのはどういう意味ですか。

○武山広報官 これは実際に発電所を動かすときに、最初は電気をもらわないと動かさないのということで、自分で発電していないから、そのための変圧器ですね。受電するための変圧器。

○記者 これは、500kVのほうからは1号機には延びていないのですか。

○武山広報官 500kVのものは、ちょっと待ってくださいね。

○記者 北陸電力のホームページとかを見ると、両方つながっている。1も2も供給しているように見えるのですが。

○武山広報官 これは簡略化した図を書いてしまったのですが、500kVのものはこれを見ると一応行っていますね。2号機からも行っています。

○記者 要はこの手書きの図にはないけれども、行っている。

○武山広報官 はい。だから、2号機からも送ることはできるのですが、今のこの電気をどうやって送っているかという状態を示したのはこの図だと。

○記者 現状で使っているのがこの緑ということですね。

○武山広報官 そういふことです。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はございますか。よろしいでしょうか。

では、記者ブリーフィングは以上といたします。今後、特段の新しい情報があれば、また改めてお知らせをいたします。

では、ありがとうございました。

—了—